



衆議院議員 河井克行事務所
自由民主党広島県第三選挙区支部

国会事務所
TEL03-3508-7518
FAX03-3508-3948

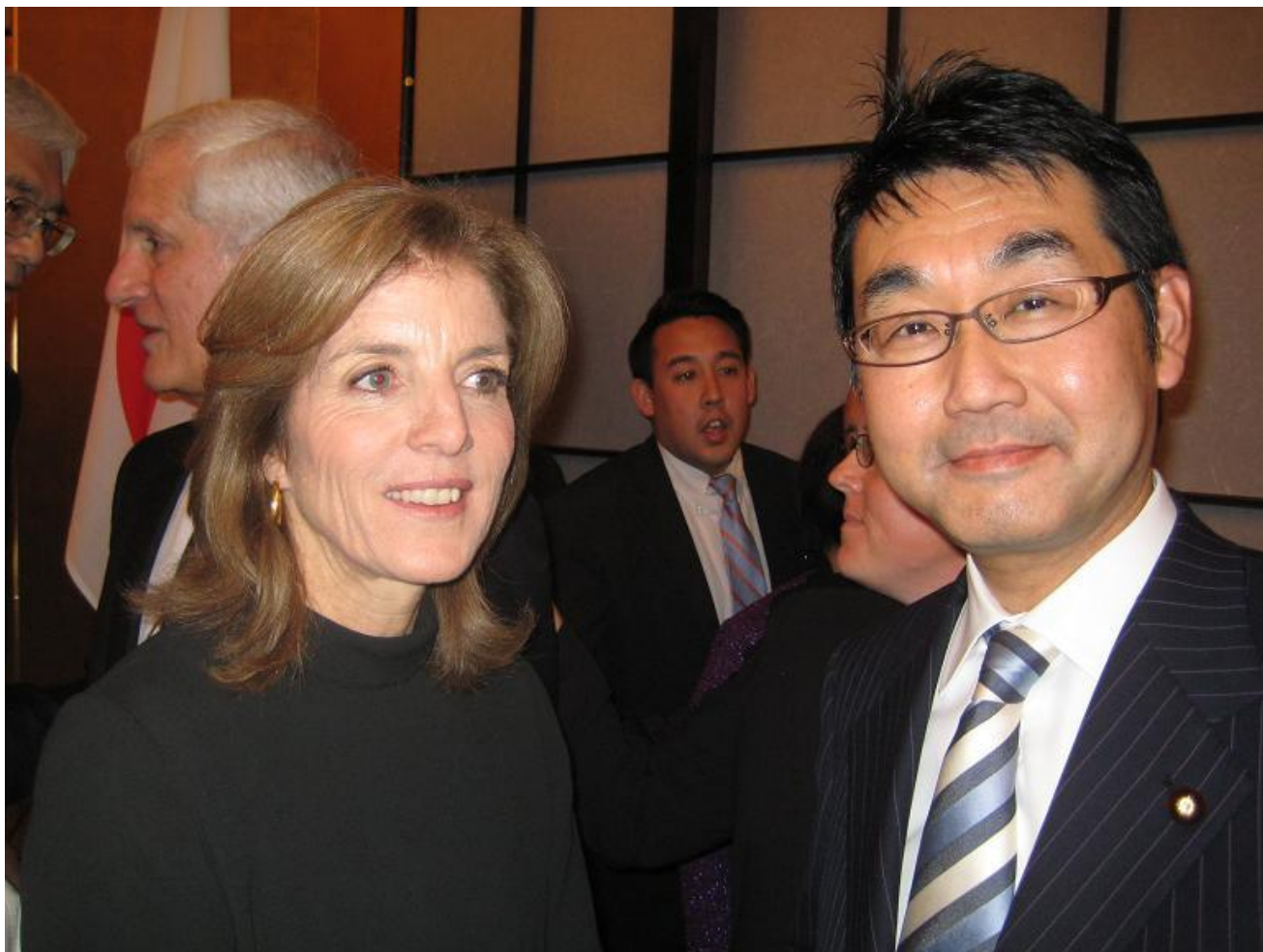
広島事務所
TEL082-832-7301
FAX082-878-3301

河井克行公式ホームページ
<http://kawai.fine.to/katsu/>

キャロライン・ケネディ大使とワシントンDCで

11月12日、折しもワシントンDCを訪問中の河井克行代議士は、日本大使公邸で催されたキャロライン・ケネディ米国新駐日大使の壮行会に出席しました。公邸周辺の道路は来場者の車列で渋滞。日本のメディアだけでなく、アメリカのメディアも多数詰め掛ける中、ケリー国務長官や約二十名の連邦議員が党派を超えて駆けつけ、大変な盛り上がりを見せていました。

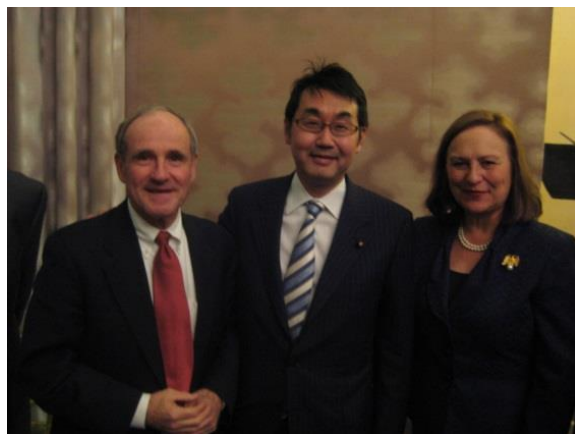
河井克行代議士は「日本で、そして広島でお待ちしています」とキャロラインさんに祝意を述べました。日米同盟の強化と深化に向け、ケネディ新大使への期待は大きく膨らみます。



ケネディ大使壮行会で歓談した米国連邦議員たち



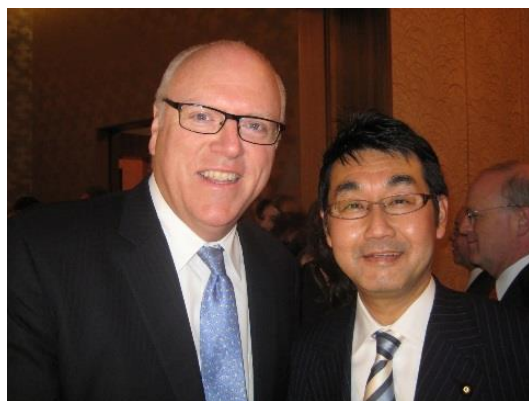
▲ デブ・フィッシャー上院議員
(共和党・ネブラスカ州)



▲ ジム・リッシュ上院議員
(共和党・アイダホ州)



▲ エドワード・マーキー上院議員
(民主党・マサチューセッツ州)
右は佐々江賢一郎駐米大使



▲ ジョセフ・クラウリー下院議員
(民主党・ニューヨーク州)



▲ ラッシュ・ホルト下院議員
(民主党・ニュージャージー州)

左はルイス・フランケル下院議員
(民主党・フロリダ州)、
右はグレース・メン下院議員
(民主党・ニューヨーク州) ▼



◦ ▲ ケネディ大使の甥、ジョセフ・ケネディⅢ下院議員
(マサチューセッツ州)



ワシントンDC今年三回目の訪問

議員外交に力を尽くす

～有力シンクタンクで沖縄問題を講演～

米国の政界では連邦議会の存在感が増す一方です。オバマ政権だけでなく、議会の指導者たちとも日頃から日米同盟についての信頼を醸成することは極めて重要なことです。この使命を果たすため、11月12日と13日、河井克行代議士はキャピタル・ヒル(連邦議員会館)を、衆議院外務委員長時代から培った米国議会における人脈を駆使し、慌しく駆け回りました。議会の外交・軍事有力議員らに、日本を取り巻く国際環境の厳しさを分かりやすく説明するとともに、アジア・太平洋地域に対する考え方を掴んで来ました。

また、親交のあるマイケル・グリーン元国家安全保障会議(NSC)アジア上級部長の声掛けで、普天間飛行場返還合意時のラスト・デミング元駐日臨時大使をはじめとする日米関係専門家約20人を対象に、『沖縄の政治』と題する講演を戦略国際問題研究所(CSIS)で行いました。この場で米側から出された普天間飛行場固定化への懸念は、通信社の配信により沖縄のメディアで取り上げられました。さらに河井克行代議士は、DCを訪れる度に立ち寄っているヘリテージ財団でも日本政治の最新の動きや展望などについて朝食会で卓話を行いました。



中国の海洋進出に大きな関心を寄せる
ランディ・フォーブス下院軍事委員会海
軍力小委員長と再会
(共和党・バージニア州)

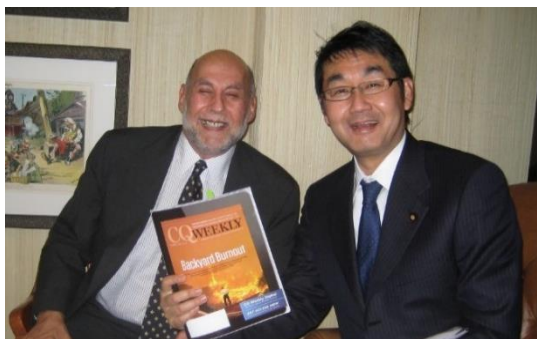
▶ バック・マキオン下院軍事委員長(共和党・カリフォルニア州)と再会。六月会談時に河井克行代議士が示した尖閣諸島周辺に飛来する中国機に対する航空自衛隊緊急発進の激増ぶりを、七月の議会公聴会で言及してくれました。





A photograph of a woman in a blue jacket and a man in a dark suit standing in front of a large, colorful mural depicting a historic street scene with buildings and storefronts.

議会専門誌『CQ』防衛・外交上級論説委員ジョナサン・ブローダー氏と再会。10月22日東京で、オバマ政権のアジア外交政策への評価について河井克行代議士は取材を受けました。その大意は『CQ WEEKLY』11月11日号に掲載されました。



"I was very, very shocked that he did not attend," says Katsuyuki Kawai, a senior parliamentarian of Japan's ruling Liberal Democratic Party and former chairman of the Diet's Foreign Affairs Committee. "Mr. Obama's not attending the meetings means that China will have a bigger influence in this region."

NEW PERSPECTIVES ON CURRENT EVENTS

As Japan and China feud over islands, America stands by, raising doubts about U.S. security commitment to Asia

BY JONATHAN BRODER

[illegible]

STARTING POINT: A China Coast Guard ship, right, with near a Japanese Coast Guard ship in a standoff over territory claimed by both countries. Such confrontations are routine sea skirmishes.

《訳》「私は、彼(オバマ大統領)が出席しなかったことに、大きな大きな衝撃を受けました」。語るのは、日本の与党・自由民主党の国会議員で、国会の前外務委員長である河井克行だ。「オバマ大統領が一連の会議(10月のAPEC首脳会議、TPP首脳会合、東アジア首脳会議)に出席しなかったことは、中国が今後この(アジア太平洋)地域でより大きな影響力を持つことを意味している」。

「辺野古無理なら固定化」

米専門家、日本に伝達

【ワシントン共同】米軍のシンクタンク戦略国際問題研究所のマイケル・グリオン上級副所長やラスト・デミング前国務省日本部長、自民党の河井克行前衆院外務委員長ら日米関係者が出席した意見交換会で、米側から発言があった。ワシントンで12日、米

沿岸部の埋め立てを承認しない場合の米国の対応について、米側出席者の一人が「普天間にとどまることになる」と述べ、辺野古以外に「移設先で選択肢はない」との見解を示した。「米国もそれを望んではない」と強調した。

仲井真知事は、日本政府内に辺野古移設を承認しなければ普天間飛行場が固定化すると考えがあることに「一種の墮落だ」と強く批判している。だが、米国の知日派の間でも辺野古移設が固定化かの「二者択一」の見方が根強い。

▶ 辺野古移設をめぐるCSISでの意見交換が報じられました『琉球新報』11月15日付



▲ 戦略国際問題研究所 (CSIS) 講演後の質疑応答



▶ ヘリテージ財団で在ワシントンの日本メディア・企業関係者向けに卓話

「列国議会同盟（IPU）ニューヨーク国連総会に関する議会人会合」で演説

～持続可能な開発をめぐり、60か国の国会議員と議論～

河井克行代議士は衆議院派遣団長として、11月14日から15日まで、ニューヨークの国連本部で行われた列国議会同盟（IPU）議会人会合に出席しました。分科会「幸福への道筋」、「女性の活用」、「民主的な統治」では、江戸時代の寺子屋教育や敗戦後の青空教室などを引用した日本の発展途上過程における教育重視の考え、そしてバングラデシュでの日本人女性の活躍などについて、すべて英語で演説を行いました。



▲
アブデルラハッド・ラディ列国議会同盟議長
（前・モロッコ王国衆議院議長）と歓談



▲
経済社会理事会会議場で日本団長として演説
を行う河井克行代議士。右隣はベナン共和国
のマツリン・ナゴ国会議員



▲
会議場で隣り合わせたバングラデシュ
人民共和国のシリル・ショードウリ国会議長と



▲
タンザニア連合共和国の
アン・マキンダ国会議長と歓談



▲
青空の下、
国連本部前にて

会合とは別に、米国の有識者とも相次いで会談。ウインストン・ロード元米国駐中国大使、イアン・ブレマー・ユーラシアグループ社長と、アジア情勢や米国の外交政策などについて、それぞれ昼食をともにしながら意見交換を行いました。



▲
ウインストン・ロード元米国駐中国大使



▲
安倍総理が九月訪米の際に懇談したイアン・
ブレマー氏。世界中の地域情勢についての
豊かな情報力に驚きました